

資料2 奈井江町地域交流センター周辺案内

1 国道12号・日本一の直線道路

国道12号は、明治19年（1886年）、上川道路として市来知（三笠市）から忠別太（旭川市）の間の道路として着工され、樺戸集治監（月形町）と空知集治監（三笠市）の囚人500人を使役して、工期95日間という突貫工事で仮道路が開削された。その後、度重なる改良が加えられ、現在は札幌と旭川を結ぶ大動脈となっている。

美唄市から滝川市までは29.2kmの日本一の国道一直線となっており、当施設はちょうどその中間に位置している。敷地の国道沿いには、一直線を示すモニュメントが設置されている。

2 水田

町内に広がる水田では、「ゆめぴりか」「ななつぼし」「きらら397」「きたくりん」などの主食用米が主に作付されている。

町内生産者の生産技術は道内でも屈指といわれ、平成27年の「第1回ゆめぴりかコンテスト」では最高金賞を獲得。低タンパク米（タンパク値が低いほど味が良い）の出荷割合でも常に道内トップレベルである。

5月の代かきの後は一面が湖のようになり、夏の青々とした稲や秋の黄金色の稲穂、冬の一面の雪原といったように、四季折々の風景を作り出している。

3 にわ山森林自然公園

市街地から東側の丘陵地帯の西端は、町民から「里山」と親しまれてきた。公園へのアクセスは、町道12号線又は14号線からとなる。

かつては石炭の採掘跡であった山を、町民が年月をかけてエゾヤマザクラやツツジ、シラカバを植え、現在では5月上旬から中旬にかけて1,800本の桜が咲き誇る。近年では、桜の見どころとして認知が広がり、平成30年からは開花時期にあわせて町観光協会が「さくら祭り」を開催するとともに、町内外から多くの見

物客が訪れている。

第1から第3までである展望台からは市街地や樺戸連山が一望でき、センターハウスにはトイレ、水道が整備され、デイキャンプが可能である（冬期は閉鎖）。

4 美唄山（標高 987m）

国道 12 号から道道東奈井江奈井江停車場線を東に 17km 進んだところに登山口がある。さらに 1 km ほど進んだ所には、不老の滝（落差 45m、幅 10m）がある。

美唄山の山頂には北海道で最後（明治 34 年）に選定された一等三角点が設置されており、札幌から近く、眺望の良さが期待できること、周辺には山菜が豊富といわれていることなどから、町外からの問い合わせが多い。

登山口までの道路は冬期通行止めとなり、開通は毎年 5 月末頃から 10 月中旬までだが、年によっては積雪や斜面の崩落で長期間の通行止めとなる場合もある。また、登山口までは悪路が続く上、ヒグマの生息地であることや、近年は登山道の手入れがほとんどされていないことから、入山には細心の注意が必要である。

5 樺戸連山、ピンネシリ（標高 1100m）、隈根尻山（標高 971m）

施設から西側に望む山塊は、地元では「樺戸連山」と呼ばれている。稜線の奥にお椀を伏したようなひととき大きく見える山は、ピンネシリ（標高 1100m）である。山の名前はアイヌ語で「男山」の意味からきており、脇には「女山」を意味する待根山（標高 1002m）を従えている。ピンネシリの頂上には、雨雪観測用のレーダードームが設置されている。新十津川町、当別町側から登ることができる。

樺戸連山の手前側の稜線で最も高い山は、隈根尻山（標高 971m）である。浦臼町、当別町側から登ることができ、浦臼町側からの登山道では、石狩川中流域の展望が開けている。